Vol.68 Summer

SAKUYO GAKUEN NEWS

作陽学園報

くらしき作陽大学／作陽音楽短期大学／岡山県作陽高等学校

■創立者松田藤子
記念ホールの開設…2頁
■「21世紀の危機を救え」…3頁
学校法人作陽学園
理事長　松田英毅
■「作陽の『つながり』」…4頁
副学長　吉田一成
■「♪音楽の贈り物を
笑顔でお届けします♪」…5頁
音楽学部長
大学院音楽研究科長　竹内京子
■「食のプロを養成する
“作陽の醍醐味”」…6頁
食文化学部長　宮本　拓
■「作陽ブランドの手ごたえ」…7頁
子ども教育学部長　高橋香代
■「音楽の基礎力と表現力をみにつけ、
心のハーモニーを創る」…8頁
作陽音楽短期大学
音楽学科長　菅付章宏
■「岡山県作陽高等学校」
……9～10頁
■新任教員のご紹介、
退職・退任された教員のご紹介
……11頁
■「沢山の子どもたちの笑顔と
笑い声に囲まれて」…12頁
くらしき作陽大学附属認定こども園
副園長　妹島三絵
■鶴声会だより・翠会だより・
作陽高校同窓会だより……13頁
■平成26年度決算について
……14頁
■演奏会のご案内……15頁

くらしき作陽大学 食文化学部 栄養学科

第29回
管理栄養士
国家試験
合格率

100%達成

受験者数76名（合格者76名）
平成27年5月8日発表

平成27年3月に実施された第29回管理栄養士国家試験で、
食文化学部 栄養学科は76名の合格者を出しました。
また、本学科では第20回（1期生）～第29回（10期生）までの
10年間の累計合計者数が636名となりました。

発行所
学校法人作陽学園
岡山県倉敷市玉島長尾3515　TEL.086・523・0888（代）

人生の新たなスタートライン

桜の見頃を迎えたキャンパスで4月3日、平成27年度 くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学・大学院の入学式が執り行われ、総勢429名の新入生を迎えました。

松田英毅学長による式辞の後、新入生を代表し子ども教育学部子ども教育学科の仙波万季さん（愛媛県出身）が、人格の向上と学術の研修に精励することを宣言しました。

創立者松田藤子記念ホールの開設

平成 27 年 2 月 24 日、くらしき作陽大学附属図書館に「松田藤子記念ホール」がオープンしました。皆さまのご観覧をお待ちしております。

なお、卒業生の皆さまにおかれては、藤子先生からの手紙やハガキなどの遺品類をお持ちの方はご連絡くださいますようお願いします。また、感銘を受けた「藤子先生の教え」のご投稿もお待ちしております。

作陽学園事務局 TEL：086(436)0274

21世紀の危機を救え

理事長
松田英毅（まつだひでき）

わが国は戦後70年を迎え、その間急速に近代化がはかられ、国民の努力が実を結び、便利で、快適で、経済的に豊かな国づくりがなされ、現在もその豊かさの一層の追求がなされています。この平和で快適な時代は、人類の真の発展へと通じるのでしょうか。

この発達した今日の文明社会では、「子どもたちは、野山をかけ回り、目をキラキラ輝かせ、遊びに夢中になる。学生は、将来を夢見て真剣に学び、成人しては試練を苦にせず、仕事に喜び精を出す。老いては感謝と歓喜の念で満たされる」といった社会になっているかといえば、そうではありません。それは何故でしょうか。

4年前の東日本大震災で起きた原発事故では、世界中がふるえあがったのに、問題は解決されないまま、原発の再稼働や海外への輸出が進められています。また日本は、今や少子高齢化の社会であり、特に、少子化の問題の解決の糸口は見えません。さらに、地球規模での気象異常があります。先頃インドでは、45度の熱波で1500人もの死者が出ており、自然が人類に牙をむきはじめたのではないかと思われます。これらのことは、近代科学技術文明が、人類の発展に大きな闇をかかえていることを示しています。

現代人は、科学技術の恩恵をはかり知れないほど受けています。そのために多くの人は、科学は絶対としていますが、近代科学技術文明は、ニーチェが、「神は死んだ」と言ったように、自然を征服して発達してきたことを忘れてはなりません。

原発事故の際、科学者から出た「想定外」ということばは、人間の智慧のなさを示すものであり、その被害総額や放射能の危険性ははかり知れず、未だに事故原発の処理の目途さえ立っていないことを考えると、脱原発こそ最上の選択と思われます。少子化の問題は、若い女性ばかりの問題ではありません。現代人は、人としての誕生、存在、生きていることが、どんなに凄いことかについて無知であります。今日の進んだ科学技術でも、生物（いきもの）の生命を創り出すことはできないのです。人の身体は、大人でおよそ50兆個の細胞から成り立っています。そして、それぞれの臓器をつくり、その役割を果たしています。50兆の細胞が、少しも争うことなく、協力しあって人間の生命を支えてくれています。これらの細胞は、数か月で入れかわるのですが、人間が生まれて死に至るまで、一時も休むことなく、熟睡しているときも、働きづめで働いてくれています。このような、人智の及ばないはたらきに頭を垂れ、大いなるものへの畏敬の念をもち、生かされていることへ感謝し、生への喜びをかみしめ、生きいきと生きることこそ、現代人に必要なことではないでしょうか。ただ、煩悩（貪欲）を満足させるため、経済的豊かさを追求するところに、少子化の一つの要因があるのではと思われます。

地球規模での自然環境破壊がもとで、異常な天候が生じているのは、ほぼまちがいないことでしょう。その原因を追求すれば、それは経済的豊さを求めての森林破壊や大気汚染により、地球全体を保護している薄い気圏に異常が起きているからでしょう。

現代社会をつくっている科学技術文明は、その根底に人間の煩悩があり、経済的豊かさと快楽を生み出していますが、今のままでは人類の滅亡を早める危険性があります。

チベットのダライ ラマ法王が、21世紀は日本の出番ですよ、といわれたそうです。それは、日本人は、縄文時代より自然とともに生きてきた民族であり、自然と共生できる民族だからでありましょう。「山川草木悉皆成仏」のことばに見られるように、人と自然は、一体であるとの思想を、日本人の遺伝子は持っているからです。人類の滅亡を早める西洋の科学技術文明の方向を変えるような人が、今ほど求められている時期はありません。科学技術文明のすばらしさを認めつつ、大いなるものに畏敬の念をもち、自然とともに文明を推進する。そんな人が、多く出ねばなりません。“菩薩道を歩むプロの養成”は、まさに、人類の真の発展となる文明を創る人を養成するということでもあります。

「念願は人格を決定す　継続は力なり」の作陽精神こそ、いきいきとした文明を創るものと思います。ありとあらゆる存在を是とし、その中から、人類が真に向上発展する文明を創る、そのような人が多く育って欲しいものです。

作陽の「つながり」

副学長
吉田一成（よしだ いっせい）

「作陽の想い出は？」。卒業生に会うと必ず訊くことにしています。答はもちろん多種多様。スゴい先輩、オモロい仲間。エラい先生、コワい師匠。ヤサしい大家さん、フトっ腹のガクショクのおばちゃん。想い出の部品はすべて「人とのつながり」の景色の中に貯えられています。

この４月、作陽の生まれた津山市で小さな演奏会が開かれました。出演したのは伊地知宏幸（Bar.）、岡部しのぶ（Sop.）、鳥越由美（Pf.）の３氏。いずれも作陽で育った音楽家です。伊地知氏はフォルカー・レニッケ教授の門下生。オペラマイスタークラスでディプロマを取得した後、国立ウィーン音楽大学を卒業して、'99 年からウィーン国立歌劇場の中堅団員。ソリストとしてもヨーロッパ各地のオペラに出演している俊才です。

その伊地知氏いわく。「ヨーロッパのオペラの練習スタイルはレニッケ先生のシステムと同じ。先生との出会いは宝物でした」「先輩や同級生には『“歌のお兄さん”になれば!?』などとからかわれました。けど、僕はオペラ歌手を目指しました。子どもの頃からの目標だったんです」「苦しいとき辛いときには、学長（松田藤子）先生の言葉（作陽の精神「念願は人格を決定す　継続は力なり」）を（自分に）言い聞かせたんです」。

この演奏会を支援して頂いた津山の方々が「いつでもおいで！　応援しとるよ！」とエールを送ってくださったことにも「人のつながり、地のつながり」に感じ入ったことでした。

５月、高知の岡豊高校で、今年で９年目となる「吹奏楽クリニック」が開催されました。同窓会高知県人会の池上、小嶋、時久、吉田氏ら諸兄姉の思いの込められたこの講習会には、今年も 500 名を超える中高生が参加しました。山下武（Per.）、長瀬敏和（Sax.）、菅付章宏（Ob.）、T. Carter（Cl.）の教授陣をはじめ、選りすぐりの在学生･卒業生諸君 32 名が、face to face で「作陽の音」を伝え、受講生の音に輝きを加えました。

同じ５月。昭和 58 年卒の三浦克也氏から音楽祭への支援の依頼状が届きました。兵庫県吹奏楽連盟の理事長でもある三浦氏の口癖は「作陽つながり」。氏が教員として吹奏楽部の指導に携わってこられたのは、そして最高位の賞の常連となれたのは、自分の専門（Tp.）以外の楽器について幾多の先輩･同級生、そして後輩諸氏の「(手弁当の）協力のおかげ」とのこと。高校野球にも似た熱い風の吹く学校吹奏楽の世界で、時空を超えた「同窓のつながり」の重みを象徴する言葉といえるでしょう。

そして６月。作陽の位置する倉敷・玉島では「第１回玉島音楽フェスティバル」が開かれました。中桐實教授との縁で、玉島商工会議所の青年部発足 30 周年を記念して開催されたこの音楽祭には、同青年部をはじめ、倉敷市教委、地元企業の支援が結びつき、企画段階から参画させていただいた学生諸君とともに、地域の活性化を図る「思い」が結集されました。

平成 26 年度、作陽は倉敷市と倉敷芸科大と連携して文科省の「地（知）の拠点整備事業（COC 事業）」に応募し、およそ 10 倍（25/246 件）の難関を突破して採択されました。このプロジェクトは、大学を地域創生の中核として位置づけ、若者と地域の人びとが手を結んでこの地を活性化しようという企てです。

この COC 事業で、音楽学部・大学院・音楽短大の学生諸君は、倉敷市内の学校や病院、美術館などと連携する音楽活動を通じて、地域社会と“じかに”関わります。食文化学部の諸君は、「健康」や「食育」などの視点から市民と交流する具体的かつ実践的な活動を展開します。子ども教育学部では、地域の保育・教育機関との協働活動をさらに深め、キャリア教育を含む実践的な学修システムを強化します。

作陽は、一人ひとりの「念願」を互いに感じ取り、その実現に向けて共に「継続」する、そのための「つながり」を大切にする大学であり続けます。

今津屋橋から望む津山キャンパス（昭和 53 年）

倉敷キャンパス（平成 27 年）

♪音楽の贈り物を笑顔でお届けします♪

音楽学部長
大学院音楽研究科長
竹内京子（たけうちきょうこ）

皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。

今年度、音楽学部長と大学院音楽研究科長を兼ねさせていただくことになりました。副学長の吉田一成先生から“ステューデントファースト！”の笑顔路線を継承してまいります。どうかこれまでと変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

昨年度も多彩な演奏会や催しがございましたが、卒業生の皆さまにはいつも暖かな応援をいただいておりますことにこの場をお借りして心より厚く御礼を申し上げます。

今年１月31日には、宮川彬良氏を招いた『ウィンドフィルハーモニー特別演奏会』を開催いたしましたところ、藤花楽堂が満員御礼となりました。お忙しい中多くのお客様にお運びいただき、心より感謝申し上げますとともに、せっかくご遠路お越しくださいましたのに会場にお入りいただけなかったお客様に深くお詫びを申し上げます。宮川先生は学ぶ姿勢のよい本学の学生達をとても気に入ってくださり、「来年も何としても時間を作って来るからね！」と１月31日に公演のお約束をいただいています。

２月恒例であります大学院ハーフリサイタルや修了演奏会が今年も大変好評でございました。特に本学の講師を勤めながら大学院に籍を置いて研究を深めている中井章徳氏が声楽の筒井絢子さんと近藤紫乃さんとともに卒業生、先生方の助演をいただきながらオペラ『カバレリア・ルスティカーナ』を成功に導いたのは記憶に新しいところです。

今年度は11月17日に『ラ・ボエームハイライト』１月24日に『フィガロの結婚』の上演を予定しております。また12月20日には『オーケストラ特別演奏会』において『フィンランディア』と『第九』を演奏いたします。

こういった演奏会や成果発表会等で演奏力を高める一方で、学生たちは教育面においても大変な力をつけております。音楽教育専修生は中・高の教員免許に加えて小学校の教員免許を取得することが可能となり、過密スケジュールを乗り越えた4名が今秋初めて小学校での教育実習を行います。心から声援を送りたいと思います。これまで学校現場での激務の上に眠る間も惜しみ異校種免許を取得して来られた卒業生の皆さまのパワーと実績が今日に繋がってきたと強く感じます。感謝の念でいっぱいでございます。

さて、様々な取組を行う中で『作陽』の音楽学部と大学院では、学生の音楽力（専門性）を向上させることと同じくらい、学生たちが社会に出て困らないような人間に成長してもらいたいと願いながら教育活動を行っております。専門性が高いだけでは社会では通用しないのだという事を、私自身ずいぶん後から思い知ったように記憶しております。

卒業生の皆さまや地域の皆さまのお力添えをいただきながら、学生と教職員が一丸となってお客様の心を温める音楽の贈り物を精一杯お届けしてまいりますので、どうぞ今まで以上にご指導ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願いを申し上げます。

2015年１月31日『くらしき作陽大学 ウインド・フィルハーモニー 特別演奏会』

2015年2月22日くらしき作陽大学 大学院 修了演奏会
『カヴァレリア・ルスティカーナ』

食のプロを養成する“作陽の醍醐味”

食文化学部長
宮本（みやもと）　拓（たく）

山陽自動車道玉島インターを降りてすぐの閑静な高台に位置し、緑とマッチしたモダンな学舎、くらしき作陽大学に着任してほぼ３か月が経ちました。私は、長年、世界の伝統的な発酵乳・発酵食品の調査研究に携わり、それらが人々の食生活と密接に関係しながら地域独特の食文化を形成していることを学んできました。

一方、わが国の食文化の原点となった「醍醐」は、古代日本の乳製品で飛鳥、奈良、平安時代に貴族や僧侶の間で珍重されていた薬効・スタミナ食品です。遠く、インド、中国、朝鮮を経由して、仏教思想とともに先端文化が導入された時、古い都飛鳥の地に誕生しました。この世で最高の味を意味する「醍醐味」は古代乳製品の醍醐が起源とされます。

くらしき作陽大学食文化学部は栄養学科と現代食文化学科から成り、管理栄養士、栄養士、フードコーディネーター、栄養教諭および家庭科教員の養成を目指し、教育・研究を通じて地域社会に貢献するよう努めています。また、「食」を通じて地域の食文化の発展に寄与する食のプロを養成することを究極の目標としており、まさに「作陽の醍醐味」といえます。具体的には、次のような点があげられます。

１．豊かな人間性とコミュニケーション能力を備えた管理栄養士・栄養士の養成

健康は幸福な人生の基盤です。「食」の視点から健康を支える予防医学の推進を目指し、管理栄養士・栄養士養成課程としての使命を果たすようにします。特に、本学部では、保育園や小学校の園児や児童に対して食育の指導を行うことで、実践力を身につけるとともに、それを強化する科目や実習を独自に設けています。また、社会に近い実践の場「さくようヘルスケアレストラン」を開設し、メニュー作成から調理、食のサービスに至るまでを実践しています。

２．満足度の高い食環境を創造できるフードコーディネーターの育成

食事は、「栄養」や「おいしさ」だけでなく、食環境の影響が大きいことが認識されています。本学部では、栄養・食品関連の専門知識を持ち、料理人とのコラボレーションによる器のコーディネート、テーブルコーディネートにとどまらず、飲食店や食品会社でのメニュー開発や商品開発、地元への貢献活動を通じ、観光支援や第六次産業支援、広報宣伝や販売促進等のコンサルティング、さらには店舗開設を目指す人材を育成します。

３．地域と連携した実践力の育成および地域貢献活動

大型スーパーマーケットとコラボして「さくようヘルスケアレストラン」のメニューを一般市民に公開し、健康増進・生活習慣病予防に対する啓発活動をしています。また、その一部をＴＶでも放映しています。

さて、平成27年３月に実施された第29回管理栄養士国家試験の合格発表が５月８日にあり、栄養学科は76名の合格者（合格率100％）で、全国トップクラスの合格実績を達成しました。着任早々のうれしい知らせに接し、合格者の皆さんやご指導に当たられた先生方に敬意を表します。このように、歴代の学部長が築いてこられた伝統を継承しつつ、更なる発展に向けて学生とともに、教職員が一丸となって取り組んでまいりたいと思っています。皆様の一層のご支援・ご協力をお願いして、着任のご挨拶とさせていただきます。

作陽ブランドの手ごたえ

子ども教育学部長
高橋香代（たかはしかよ）

平成20年度に設置した子ども教育学部も８年目を迎えました。この春には４期生が卒業し、平成27年４月末現在、就職希望者85名のうち84名99%が就職しました。内訳は、小学校教員14名、特別支援学校教員２名、公立幼稚園教員11名、私立幼稚園教員５名、公立保育所保育士14名、私立保育所保育士15名、社会福祉施設職員７名、一般企業15名、公務員１名、就職活動進行中１名でした。公立ならびに公務員の正規採用者は、21名25%（小学校６、特別支援１、幼稚園２、保育所11、自衛隊１）であり、１期生から３期生の20%を超えています。子ども教育に関する専門職に従事することができた卒業生は68名80%で、専門職への就職率８割を確保できました。学生たちの学修成果が、専門職への就職率に着実に反映していると思います。

卒業生は、岡山県や広島県を中心に全国で活躍しています。卒業した年の夏休みなどには、大学に顔を出して、後輩に仕事ぶりや採用試験対策について語ってくれています。仕事で悩んだり困ったりした時もあるようですが、同級生同士で相談したり、大学の先生方を訪ねてきたりして、元気を取り戻しています。その様子を見るにつけ、これらの卒業生が、子ども教育の専門職の作陽ブランドを創ってくれているという手ごたえを感じています。

設置当初80名でスタートした入学定員は、平成25年度に小学校・特別支援学校コース30名と、保育園・幼稚園コース80名の２コース110名に増員しました。さらに平成27年度には、保育園・幼稚園コースを120名に増員し入学定員を150名としました。急速な定員増のため入学定員の確保を危ぶんでいましたが、４月には159名の新入生を迎えることができました。子ども教育学部が、高校生にも子ども教育の専門職の養成機関として一定の評価を得ることができつつあるのではないかと思います。

もともとまじめで素直な学生が多く、子どもたちをすっと受け入れることができるので、しっかりと目的意識をもつことができれば、がんばる力が伸びてきます。だからこそ、学生たちがやる気になる、作陽ならではの魅力あるカリキュラムを創りだしていかなければと思います。平成26年度には、①フィールドと連携した体系的なキャリア教育、②基盤となる特別支援教育力の強化、③音楽教育・児童文化・造形などの実践力の育成、④英語教育の充実を図りました。また、倉敷市教育委員会や倉敷まきび支援学校と包括連携協定をむすぶことができ、教育実習やボランティア活動などの質を向上させることもできそうです。学部共通の教材として「指導案作成の手引」の発行や、「季節の手遊び・歌遊び集」「手作り・リサイクル玩具」など授業成果を小冊子とする成果もえられました。

これからも特別支援教育力と実践力の作陽ブランドが一層輝くように、教職一体で努力してまいりたいと思いますので、皆様のご支援をよろしくお願いします。

子ども教育の作陽ブランド

①五感を通して
保育・教育できる力の育成

②障害のある子どもたちへの
特別支援教育力の育成

③地域のフィールド活動と
連携した実践力の育成

④４年間一貫のキャリア教育で
就職力の育成

玉島親子クラブとの交流

とらまる人形劇団との協定事業

倉敷まきび支援学校との連携協定

実践力を養うキャリア教育

音楽の基礎力と表現力をみにつけ、心のハーモニーを創る

作陽音楽短期大学
音楽学科長
菅付章宏（すがつきあきひろ）

上甲廣文音楽学科長の後任としてその責任の重さを感じながら学生達と過ごす毎日ですが、皆様、お元気でお過ごしでしょうか。

昭和26年に作陽短期大学として開学以来、昭和38年短大に音楽科が新設され、作陽音楽大学が昭和41年に開学、その後くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学と名を変えましたが、作陽の精神は今も変わらず、そして今年度から新たに作陽音楽短期大学には幼児教育専攻が新設され音楽に関する豊かな感性と専門知識・技術・保育・教育に関する豊かな専門性を備えた保育士・幼稚園教諭の養成をスタートさせております。

作陽音楽短期大学は今年も57名の新入生を迎え、27年度をスタートいたしました。音楽専攻・幼児教育専攻共に良き社会人を育成することを目的とし、地域社会に貢献できる良き音楽人を育成するため音楽の広範な基礎力と人間性を磨き、日々の学生生活がより充実し学生の心に寄り添うそして学生達の夢が叶えられる教員集団を目指しています。

また10月には短期大学主催で行われますデザミ・ド・ミュジク＆吹奏楽演奏会でも学生・教職員一体となってのイベント計画も進行中です。

新たな転換点を迎え作陽音楽短期大学として、学生と教職員がエネルギーと英知を出し合い共に歩み成長したいと願っています。これからも卒業生ならびに学園関係者の皆様の一層のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

デザミ・ド・ミュジク＆吹奏楽演奏会

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の教育目的

■くらしき作陽大学の目的

本学は教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に 4 年の音楽、食文化又は子ども教育に関する大学教育を施し、良き社会人を育成することを目的とし、宗教的情操教育を施して信念と道義心とを涵養し、以て大学教育の普及と地方文化の向上を図ることを使命とする。

音楽学部の目的

・音楽学部の教育研究上の目的
音楽学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、音楽に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、国際的な音楽文化の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・音楽学科の教育研究上の目的
国際的な音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と高度な技術とともに、社会性ある音楽家を養成する。

食文化学部の目的

・食文化学部の教育研究上の目的
食文化学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、食に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、食文化の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・現代食文化学科の教育研究上の目的
食に関する教育研究を通して、食を総合的に学修した食文化に強い心豊かな栄養士ならびに教員等を養成する。

・栄養学科の教育研究上の目的
食と健康に関する教育研究を通して、健全な未来社会を築くために貢献できる心豊かな管理栄養士を養成する。

子ども教育学部の目的

・子ども教育学部の教育研究上の目的
子ども教育学部は、建学の精神に基づく人間教育のもとに、保育と教育及び子育て支援に関する質の高い専門性を身につけた心豊かに生きいきと生きる職業人を養成するとともに、保育と教育及び子育て支援の教育研究拠点として地域に貢献することを目的とする。

・子ども教育学科の教育研究上の目的
保育と教育、子育て支援に関する教育研究を通して、現代の保育・教育現場に求められる高度な専門性と実践力を持った、心豊かな保育・教育等に従事する人材を養成する。

大学院音楽研究科の目的

広い視野に立って音楽に関する清深な学識を授け、地域の音楽文化の向上に貢献することのできる高度な専門性を有する人材を養成することを目的とする。

■作陽音楽短期大学の目的

本学は教育基本法および学校教育法の定めるところに従い、高等学校教育の基礎の上に、2 年の音楽に関する大学教育を施し、良き社会人を育成することを目的とし、宗教的情操教育を施して信念と道義心とを涵養し、以て大学教育の普及と地方文化の向上を図ることを使命とする。

・音楽学科の教育研究上の目的
音楽学科は、建学の精神に基づく人間教育のもと、音楽に関する豊かな感性と専門性をもって地域の文化や教育の向上のため心豊かに生きいきと生きる職業人を養成する。

・音楽専攻の教育研究上の目的
音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と高い専門性をもつ心豊かな人材を養成する。

・幼児教育専攻の教育研究上の目的
幼児教育と音楽文化の教育研究を通して、音楽に関する豊かな感性と専門性をもつ心豊かな保育・幼児教育に従事する人材を養成する。

念願は人格を決定す
継続は力なり

岡山県作陽高等学校
SAKUYO High School

『更なる前進を期して』

校長 松野 英雄

本校は、1930年の創立以来85年間、校訓の「念願は人格を決定す 継続は力なり」のもと、「社会を正しく生き抜くことのできる真の人間力の育成」を目標に、社会に有為な人材を輩出してきました。

昨年度、進学では、東京工業大学、東京海洋大学、神戸市立大学など国公立大学11名をはじめ関西学院大学、国際基督教大学など私立難関大学へも多数の生徒が合格し、次年度生の大きな励みとなっています。一方、就職では、NTN㈱、ゆのごう美春閣などに例年より多い50名が決定し、平成26年度卒業生の進路状況は、進学76%、就職24%の割合となっています。

スポーツでは、柔道部の金鷲旗大会・団体５位、女子サッカー部の全国高校総体・３位をはじめ、ゴルフ部２年生男子が日本代表としてワールドカップに出場するなど、昨年度も「作陽旋風」を巻き起こしてくれました。

文化面でも、書道部・２年生男子の全国高校総合文化祭への出展をはじめ、吹奏楽部のマーチング中国大会での銅賞獲得や音楽デザイン系２年生のバンドバトル西日本グランプリへの出場など、実績を積み上げています。

こうした輝かしい成果の一方で、学校全体としては、残念ながらまだまだ不十分な現状が見受けられることから、更なる前進を期して様々な取り組みを始めています。

１つ目は、今春の入学生から、これまでの普通科５コース10系を６コース９系に改編するとともに、入試内容を３教科型あるいは２教科型に変更し、各コースのより一層の充実を図っています。

２つ目は、携帯電話など不要な電子機器類の校舎内への持ち込みを「原則禁止」としました。携帯電話への依存症の防止が叫ばれる中で、集中して授業に臨むことができる環境を作るため、今年の２月からの試行期間を経て実施することとしました。

３つ目は、挨拶・掃除・合掌日本一プロジェクトです。本校の教育実践目標でもある「挨拶・掃除・合掌」の励行を通して、「社会に貢献できる人材の育成」に向けて努力していきたいと考えています。

４つ目は、基礎学力向上プロジェクトです。小論文や志望理由書対策として、全学年が新聞コラムを週１回書き写すとともに、１・２年生の漢字検定への取り組みと併せて、英語・数学については中学校の学習内容の復習を取り入れることとしました。

こうした取り組みを通して、高校卒業時だけでなく、10年先の将来をも見越した人間教育に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

『いま、高校生活で何が必要か!』

教頭 神田 寿則

現在の社会は混沌としており、少子高齢化、地域間格差、グローバル化、IT技術の進歩、雇用の問題、働き方や生活スタイルの変化など、予測不可能な時代となっています。また、2020年からはセンター試験の廃止に伴う、高等学校基礎学力テスト（仮称）の導入や大学ごとの個別入試など、生徒を取り巻く環境も大きく変化しています。

その大きな流れの中、社会を生き抜くためには高校時代に何をしたのか、どう過ごしたのかが大変重要となります。自己の目的意識を持ち、様々な変化に柔軟な対応ができる生徒の育成が必要となります。幸い本校の生徒は目的意識を持って入学した生徒が多く、高校生活の中でいろいろな経験を積み成長し、卒業しています。

しかし、まだまだ、そのような壁を乗り越えていける生徒ばかりではありません。そのため、部活動、生徒会やクラス役員の取り組みを推奨するとともに、本校学校目標である「挨拶・掃除・合掌」に取り組み、生きる力と社会適応力の育成に努めています。本年度からはプロジェクトチームを結成し、教職員だけでなく、生徒、保護者の方々と共に取り組んでいます。

また、本校では基礎学力の向上のため、全校での漢字学習に取り組むとともに、漢検・英検を始め、多くの検定に挑戦しています。脳のシナプス形成は18歳までの学習に負うところが大きいと言われています。高校時代の学習や経験が脳を鍛え、物事に対応できる力を育みます。知識の詰め込みだけではなく、五感による刺激や想定外の変化に対応できるように様々な場を生かし、論理的思考により脳を鍛え、精神的に成長してくれるよう生徒とともに学んでいきたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

『学校図書室の役割』

事務長 高井 保昌

一昨年３月に「第３次岡山県こども読書活動推進計画」が策定された。この推進計画は、５年ごとに見直しされており第１次の推進計画から10年を経て策定されたものである。第３次推進計画の目的は、「自ら本を読み、読書を通じて自分の生活をより豊かにできる子どもを育てる」である。第２次の目標が「読書のきっかけ作りから読書習慣の形成・確立、自主的な読書活動に至るまでの読書環境を整備する」であり、これまでの取組と成果によって大きく変化したことが分かる。

ここで、これまでの具体的な成果について触れてみたい。「読書は好き」「どちらかというと好き」の割合は小・中学校共に全国平均を上回っており、７割を超えている。また、「１か月の読書数が１冊以上の割合」は、小学校で９割近く、中学校では７割を超え、高校でも６割強となっている。更に「３冊以上の割合」は、小学校で５割を超え、中学校、高校でも前回より増加している。

これら読書好きの増加の背景としては、二つの成果が取り上げられている。一つ目は、学校での取組で「一斉読書を週１回以上実施している割合」が小学校、中学校とも高い実施率で年々増加傾向にあるが、高校では1.5割と極端に低くなり、実施校も年々減少傾向にあることが注視されている。二つ目は、地域・家庭の取組で、ブックスタートが全市町村で実施されていることやストーリーテリング等の催し物の実施回数が大幅に増加していることが取り上げられており、幼児期から本に親しむ環境が整いつつあることが分かる。

一方、課題も明らかにされた。「全く読書をしない子どもの割合」は、小・中学校では比較的低いが、高校では減少傾向にあるものの４割近くと高く、年齢が上がるにつれ活字嫌い、読書離れの傾向が読み取れる。

本校の図書室の利用状態に目を向けると、利用者は一部の生徒に偏っているし、また、漫画や雑誌など安易な読み物の利用が多く活字離れが顕著のようである。スマートホーン等を介してのSNSの利用が高校生の間で爆発的に拡大しており、LINE等で簡単に情報を得たり、発信できたりする世の中である。生徒達がこうしたものに夢中になることも分からないではないが、将来の進路決定の時期にある高校生にとってこれらの簡便で安易な方法に頼るだけでよいのかとの危惧を覚える。こうした時代であるからこそ、学校図書室の在り方が問われている。第２次推進計画では読書活動推進の意義を「小説などを読むことは、自分と似た課題に直面している登場人物への共感を通じて、自分という存在を意識し、課題を解きほぐしていく力を育てます。」とある。今、生徒が何を求め、何に悩んでいるのかといった観点からの図書選定を始め、司書教諭の専門性を生かした授業づくり、学校司書の図書室活用の工夫など、高校生の読書離れに歯止めをかける時期ではないかと思う。

『１学年の運営方針』

１学年主任　戸田（とだ）　陽一（よういち）

新入生宿泊研修（国立吉備少年自然の家）

新入生219名が入学して２ヶ月経ち、中間考査も終わりました。最初は緊張した様子だった生徒達も高校生活に慣れてきて、日に日に表情は明るく元気になってきたようです。入学後すぐ行われた宿泊研修では、野外炊事でカレー作りを班ごとに行い、各自で役割を分担しチームワークを発揮していました。オリエンテーションでは、高校生の心構えや、コミュニケーションをうまくとるためには観察力を高めることが大切なことなどの話があり、真剣な表情で聞いていました。この研修を通じて、クラスの仲間同士や先生方との交流を深めることができたようです。１学年のスタートにあたり、学年の先生方でスローガンを考え“Change（変わる）・Challenge（挑戦する）・Continue（継続する）”の「３C」に決めました。中学生までの自分をここで一旦リセットして、今までの自分から「変わる」ことを意識し、部活動・生徒会活動・各種検定・ボランティア活動などに「挑戦」し、それを「続けて」ほしいという思いを込めたものです。その願いを抱きながら日々生徒の成長を応援していきたいと思います。

『２学年の運営方針』

２学年主任　松本（まつもと）　賢治（けんじ）

校外研修（岡山・倉敷）

今年度２学年は190名でスタートしました。４月22日に岡山～倉敷間の校外研修を行い、班で協力して行動し親睦を図ることができました。また、６月には修学旅行を計画しています。北海道の自然と文化を満喫し、学年の団結力を高めたいと思います。

来年の進路実現を目指して、まずは自分の適性・興味を知るために、進路ガイダンスや適性検査を予定しています。また学力を高めるために朝の国語、数学、英語の小テストや新聞コラムの筆写、漢字検定の取り組みを行っています。今後も、各コース毎に様々な行事が予定されています。

この１年間の様々な活動を通して、学力を高めることはもちろん、感謝の心と利他の精神を持つ心豊かな人間性が育めるように、２学年教員一丸となって取り組んでいきます。

『３学年の運営方針』

３学年主任　釈野（せきの）　昌稔（まさとし）

春の遠足（金刀比羅宮参拝）

２年生から無事に進級した生徒たちも、いよいよ最終学年となりました。これまでの２年間でいろんなことを学んだ生徒たちは、この１年で進路を決定していかなくてはなりません。高校卒業後の進路は、大学・短期大学・専門学校・就職と多岐にわたるでしょう。しかし、どれかを選んだからといって、今後の人生の安泰や幸せが、おのずと約束されているというものではありません。どの道に進んだとしても、納得のいく人生を歩むために、夢や目標を達成しようとする努力をして行くことに変わりはありません。最後の１年となりますが、生徒たちにはこれまで同様、命を大切にし、規則正しい生活を送り、感謝の気持ちを持ちながら、夢や目標に向かって継続して頑張る大切さを教えて行きたいと思います。３学年教員は生徒の思いに寄り添いながら、最後まで指導して行きたいと思います。

学校自慢　Pick-up Topics

『やっぱり作陽で良かった』という卒業生の声

■夢を叶えて卒業する作陽生（過去6年間の主な合格実績）

国公立大学	
東京工業	1
大　阪	1
筑　波	3
鳥取(医)	1
横浜国立	1
大阪府立	1
大阪教育	6
東京海洋	1
神戸市外大	1
広　島	1
岡　山	6
鳥　取	4
香　川	2
高　知	5
島　根	2
県立広島	1
岡山県立	1
防衛大学校	9
合　計	64名

私立大学			
早稲田	1	同志社	3
慶應義塾	1	立命館	7
明治	5	関西学院	13
ICU	1	関西	16
明治学院	1	関西外大	11
中央	2	京都産業	28
青山学院	3	近畿	13
日本	7	甲南	16
東洋	6	龍谷	13
駒澤	7	京都女子	2
専修	15	大阪経済	14
大東文化	3	佛教	13
東海	7	神戸学院	16
拓殖	1	帝塚山	1
亜細亜	1	ノートルダム清心	5
帝京	7	大阪体育	3
国士舘	12	徳島文理	7
日本体育	2	くらしき作陽	35
合　計			815名

■将来を見据えた
作陽教育カリキュラム

■新任教員のご紹介（大学・短期大学・附属認定こども園）

音楽学部
専任教授 森 圭吾

私がかつてオーケストラで経験したことすべてを学生の諸君につぎ込むためにやって来ました。志を高く希望を持って一緒に前に進みましょう。

食文化学部
専任教授 伊藤恵子

今まで「病院の先生」をしていましたが、初めて「学校の先生」になりました。学生さんのやる気をサポートできるようになれればいいなと思っています。

食文化学部
専任准教授 網中雅仁

健康保持・増進のための一次予防に食は欠かせません。高齢化社会に向けた、新たな視点の管理栄養士を養成できるよう、精一杯努力致します。

食文化学部
専任准教授 塩谷育子

長年勤務した病院経験を生かし、病院栄養士の魅力を伝えられるような授業の工夫に努めてまいりたいと思います。

食文化学部
専任講師 吉田純子

応用栄養学を担当します。学生のみなさんにとって、分かりやすく興味を引く講義・実習を心掛けたいと思います。よろしくお願いいたします。

子ども教育学部
専任教授 三宅嗣朗

赴任前に「法灯永久に輝かん」を読み感動いたしました。この教えを胸に、40年に亘る福祉現場の経験を若い皆さんに伝え、共に学んでいきたいと思います。

子ども教育学部
専任准教授 中塚志麻

子ども達って「すごい!」。そばにいる先生達も「すごい！」。現場の「すごい！」をしっかり伝えて、教師を目指す人を応援したいと思います。

子ども教育学部
専任准教授 片岡加代子

長年の保育園勤務で得た経験の中から実践を通して、保育の大切さ・楽しさをお伝えし、保育士・教諭を目指す人を応援していきたいと思います。

子ども教育学部
専任助教 藤田有希枝

色々な人と多くの経験を得られる素晴らしい環境において、皆さんと協力しながら大学COC事業を盛り上げていきたいと思います。よろしくお願いします。

短期大学音楽学科
専任教授 平井修二

Der Ton macht die Musik 音楽は1つの音から作り出されるものです。1つひとつの音を大切に表現できるよう、学生と共に精進していきたいと思っています。

短期大学音楽学科
専任准教授 白神繁子

幼稚園・保育所で子どもたちとかかわる仕事の楽しさ・厳しさや面白さを伝えていきたいと思います。目標に向かって一緒に頑張っていきましょうね。

短期大学音楽学科
専任講師 岡井克明

体操の実技指導（選手育成から学校体育・幼児体育まで）を務めてきました。教採対策や身体で表現する楽しさを皆さんと共有したいと思っています。

こども園
教 諭 伊藤諒美

0歳～6歳のかわいい子どもと楽しく過ごしています。こども園だからこそ感じられること、経験することを大切にして保育に取り組んでいきたいです。

こども園
教 諭 柏原悠華

大学を卒業し、今年度よりこども園でお世話になります。子ども一人一人と向き合い共に成長していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

こども園
教 諭 村上恵美子

子どもの笑顔、お母さんの笑顔が大好きです。毎日たくさんの新しい発見の中から反省し、努力して子ども達と一緒に日々成長していきたいと思います。

■新任教員のご紹介（高校）

数学科
常勤講師 熊田誠人

始まったばかりで困惑している部分もありますが、授業や部活動で、生徒とともに成長できるように充実した1日を送っていきます。

社会科
常勤講師 落司和久

教師としてのスタートは遅いですが、16年間の社会人生活を何かで活かすことが出来ればと考えています。よろしくお願い致します。

■退職・退任された教員のご紹介（大学・短期大学・高校）

大学	音楽学部	蓮井　求道	食文化学部	藤澤　早美	短大	音楽学科	丹代　茂
	音楽学部	渡邉　康雄	食文化学部	松浦加寿子		音楽学科	山下　武
	食文化学部	山下　静江	食文化学部	指田　夏美		音楽学科	加藤　充美
	食文化学部	原田　和男	食文化学部	神崎　圭太	高校	地歴公民科	高峰　和三
	食文化学部	佐藤　郁雄	子ども教育学部	國富　泰二		音楽科	吉市　幹雄
	食文化学部	大野　貴司	子ども教育学部	宮里　智恵		英語科	奥藤　耕士
	食文化学部	長谷川祐子				数学科	松岡　綾香

沢山の子どもたちの笑顔と笑い声に囲まれて

くらしき作陽大学
附属認定こども園
副園長
妹島三絵（せじまみえ）

心地よい風とまぶしいほどの緑に囲まれた園舎から園庭から元気いっぱいの園児たちの楽しそうな声が聞こえ、園は活気に満ち溢れています。平成25年４月１日に開園いたしましたくらしき作陽大学附属幼稚園は、今年度４月１日から幼保連携型認定こども園に移行し、くらしき作陽大学附属認定こども園として新たにスタートいたしました。開園して３年目の今年、年少・年中・年長の３学年が揃う完成年度を迎え、更に０歳・１歳・２歳のクラスが加わり、０歳から５歳までの乳幼児を受け入れる幼稚園と保育園の両方の良い所を活かす認定こども園となりました。学級数は全学年で９クラスになり、定員は100名から135名に変更いたしました。幼保連携型認定こども園になったことで、０歳から５歳までの教育・保育・子育て支援が可能になり、子どもと親と教師が共に育つ認定こども園としてより一層質の向上に努めてまいります。

今年度は作陽保育園の園児さんに来ていただくだけではなく、当園の年長児が作陽保育園に行かせていただいて、交流会を通して有意義で楽しい時間を過ごさせていただきながら、沢山の事を学ばせていただきます。他園の園児さんたちとの交流は新鮮な驚きと様々な体験と学びがあり、子ども達もとても楽しみにしています。

また、今年度も正課でのヴァイオリンレッスンは月３回、年少・年中・年長の園児たちが学年ごと順番に、それぞれの子どもの興味や習得のスピードに合わせて一人一人を大切に、丁寧にやさしくご指導いただき、豊かな感性が育っていくようご指導いただいております。３年目を迎える正課のヴァイオリンレッスンで、園児たちはヴァイオリンに興味と関心を持ち、課外のヴァイオリン教室を受講するお子様も次第に増えてきて、とても楽しそうにレッスンを受けている様子は嬉しい限りです。

そして、今年度から年長児は月１回、歌唱指導をしていただいております。四季折々の日本唱歌や童謡を「美しい日本語で」「正しい発音で」「きれいな声で」歌うことを大切に細やかにご指導いただき、子ども達は毎月真剣な表情でレッスンに取り組み、丁寧に心を込めて「歌う」ことを意識しながら楽しんで参加しています。

また更に、今年度から年長児は音楽活動として、音教リコーラスアンサンブルの、教師を目指す学生の方々に鍵盤ハーモニカを使っての合奏を指導していただいています。タンニング奏法・スラー奏法を教えていただき、リズム感を養い、２重奏４重奏の合奏体験をさせながら、ソルフェージュ力をつけていけるように、学生のかたと職員も一緒に指導方法の研修を行い、より良い指導が出来るようにしています。

茶華道は年中児・年長児が月１回ご指導いただき練習しています。年中児は年長児の茶華道を見学し活動のやり方を学んだ後、自分たちで実際にお茶は挨拶・歩き方・扇子の使い方，お花は生け方・花の名前を教わり、日本の伝統的な文化を体験し感性を豊かにしています。３年目を迎えて年長児たちは、お茶の頂き方も様になってきました。華道も、それぞれのお花を活けて園内に飾って楽しんでいます。年長児は硬筆も始まり、月１回ご指導いただいています。鉛筆の正しい持ち方、直線・曲線の書き方から丁寧に教えていただき、就学までに自分の名前が大きな字で力強く書けるように練習しています。

正課の英語の授業は週１回、年中児・年長児が楽しく学んでいます。工夫を凝らした様々な教材を使っての英語の勉強はとても楽しく、２人の先生のネイティブな会話も子どもたちは興味深く楽しんでいます。そして、課外の英語教室も沢山の年少児・年中児・年長児が毎週楽しく学んで成長しています。

まだまだ様々な事を試行錯誤しながら、日々充実したこども園になるよう全職員が一丸となって努力して参ります。何卒、皆様のご指導ご鞭撻を心からお願い申し上げますとともに、今後ともご支援とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

平成27年4月より「くらしき作陽大学附属認定こども園」として新たにスタート！

作陽保育園との交流会

英語の授業

ヴァイオリンレッスン

歌唱指導

お茶とお花

鶴声会だより

鶴声会近況報告

鶴声会会長 井端 豊実

今年も鶴声会会員の皆様に、会の運営に多大なご尽力をいただき、各地の同窓会支部にて活発な活動が行われています。

毎年３月に開催している鹿児島県支部スプリングコンサート。在学生と卒業生が同じステージで演奏しています。今年は鹿児島県出身でくらしき作陽大学非常勤講師の鳥越由美先生が特別ゲストとして出演され、演奏会に華を添えていただきました。

５月には関西支部総会が神戸で開催され、最後に参加された方々で歌曲を合唱するなど、親睦を深められました。

また、毎年恒例となりました大学と連携しての吹奏楽クリニックも５月10日高知県、６月13日香川県で実施し、地域の文化発展にも寄与しました。

今後の予定として８月には高知県支部40周年記念、11月には愛媛県支部総会など順次各地で計画されています。皆様の地域におかれましても積極的に同窓会活動にご参加いただけますようお願い致します。

今年は「松田藤子記念ホール」が完成し、多くの卒業生が訪問され、松田藤子先生の貴重な資料や津山校舎の写真など、心ゆくまで見学されています。来年度は大学創立50年の節目の年に総会開催となります。併せてご来場いただければと思います。みなさまにお会いできることを楽しみにしております。元気でお過ごし下さい。

翠会だより

平成27年度 作陽短期大学・作陽音楽短期大学同窓会総会並びに懇親会

翠会会長 元吉 恵子

翠会会員の皆様方におかれましては、日頃より多大なるご支援とご協力をいただき、役員一同厚く御礼申し上げます。

さて、今年は翠会総会開催の年となっており、右記のとおり開催することに決定いたしました。会員の皆様へは、８月上旬にご案内を差し上げる予定です。多くの方々のご参加を心待ちにしております。尚、今回の総会開催に合わせて同期会を計画されている方もあるようです。翠会では、同期会への助成も行っていますので、是非この機会をご活用いただき、有意義なひと時としていただければ幸いです。

平成27年度
「翠会総会並びに懇親会」

日時 平成27年11月7日(土)
11:00～15:00

場所 メルパルクOKAYAMA
(岡山市北区桑田町1-13)

会費 6,000円

作陽高校同窓会だより

集えば蘇る青春 そして藤子先生を

高校同窓会副会長 山下 亨

平成27年２月24日にくらしき作陽大学附属図書館１階に「創立者松田藤子記念ホール」が完成（本誌P2参照）。卒業生の方々が毎週のように来館され藤子先生の展示品を観覧されています。藤子先生の教えと育みを脳裏に刻み人生を頑張ってこられた卒業生たちにとってこの記念ホールは「ルーツの館」と言えるでしょう。母校が一段と鮮明に大きく輝く場でもあります。

さて、高校同窓会は、昨年も本部総会や関西・関東の支部総会が開催されております。関東支部総会（**写真右**）にはアジアゴルフ選手権で優勝し帰国した松本新語氏（S48卒）も参加し参加者の祝福を受けました。ちなみに、後列右端の田村耕作氏（S61卒）は４月の統一地方選で千葉県議会議員に初当選しております。

一方、この４月には古稀を祝うS39年卒業生の会（39桜の会・**写真左**）が開催され松田隼人先生の法話をいただくなど青春復活の溌溂とした会となりました。

なお、同窓会本部は支部同窓会やクラス会の支援（助成）を行っています。また、平成27年度の本部総会及び懇親会が８月16日(日)10時に開催されますので、ご参加をお待ちしております。

H27.4.16 39桜の会（犬鳴山温泉）

H26.11.23 関東支部総会（東京・五反田）

平成26年度決算について

平成26年度決算の概要は以下のとおりです。この決算は、5月19日に行なわれた理事会・評議員会の承認を受けたものです。

資金収支計算書

【収入の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	2,138	2,143	△5
手数料収入	34	32	2
寄付金収入	98	104	△6
補助金収入	493	454	39
資産運用収入	52	46	6
資産売却収入	100	100	0
事業収入	82	79	3
雑収入	137	138	△1
前受金収入	446	396	50
その他の収入	150	540	△390
資金収入調整勘定	△470	△505	35
前年度繰越支払資金	3,911	3,911	0
収入の部合計	7,171	7,436	△265

学生生徒等納付金収入は、入学金を含む授業料などの学費収入です。

資産売却収入は、固定資産等の売却による収入をいい、不動産、有価証券などの売却による収入が代表的なものとしてあげられます。

雑収入には学納金から事業収入までの収入科目に含まれない収入で、かつ帰属収入となる収入が記載されます。年度によって異なりますが、退職交付金はその中でも大きなウエイトを占めることがあります。

前受金収入は、翌年度以降の諸活動に対応する資金を受け入れた場合に生ずる科目で、一般的には翌年度入学生にかかる学生生徒等納付金収入などが代表的なものです。

固定資産取得のための引当特定預金から取り崩した繰入収入の他、貸付金回収収入、預り金受入収入等、帰属収入の性質をもたない収入を計上するものです。

資金収入調整勘定は、期末における未収入金の計上、また前年度で前受金とした当該年度に属する学費収入等を学生生徒等納付金収入として計上するための減算科目です。

【支出の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
人件費支出	1,684	1,614	70
教育研究経費支出	540	474	66
管理経費支出	220	198	22
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	46	43	3
設備関係支出	51	48	3
資産運用支出	100	507	△407
その他の支出	140	145	△5
[予備費]	10	0	10
資金支出調整勘定	△98	△85	△13
次年度繰越支払資金	4,479	4,492	△13
支出の部合計	7,171	7,436	△265

教育研究経費支出とは、教育研究に直接摘要する経費のことをいい、光熱水費をはじめ研究費、奨学費、入学試験にかかる経費もこの中に含まれます。

管理経費支出は、教育研究活動に間接的に要する経費で、一般経費のほかに役員会、法人業務、教職員の福利厚生費、学生募集経費、食堂の経費などが加わります。

施設関係支出とは、土地、建物、構築物といった固定資産取得のための支出です。

設備関係支出とは、教育研究用の機器備品、その他の機器備品、図書、車輌といった固定資産取得のための支出です。

前年度中の活動に係る支出のうち、当該年度に支払われた前期末未払金支払支出の他、前払金支払支出などがあります。

資金支出調整勘定とは、当該年度中に支払うべき支出であるが、支払いが次年度になる期末未払金や、前年度に支払いを済ませた当該年度の支出を減算することにより支出額を調整するものです。

≪資金収支の概要≫

収入の大部分を占める学生生徒等納付金収入は予算比500万円増収の21億4,300万円、寄付金収入は予算比600万円増収の1億400万円、補助金収入は予算比3,900万円減収の4億5,400万円となりました。

一方、主な支出については人件費支出が予算比7,000万円減額の16億1,400万円、教育研究経費支出が予算比6,600万円減額の4億7,400万円、管理経費支出が予算比2,200万円減額の1億9,800万円、施設関係支出が予算比300万円減額の4,300万円、設備関係支出が予算比300万円減額の4,800万円となりました。

消費収支計算書

【消費収入の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	2,138	2,143	△5
手数料	34	32	2
寄付金	100	104	△4
補助金	493	454	39
資産運用収入	52	37	15
事業収入	82	79	3
雑収入	137	139	△2
帰属収入合計	3,036	2,988	48
基本金組入額合計	△97	△43	△54
消費収入の部合計	2,939	2,945	△6

学生生徒等納付金とは、授業料、入学金、教育運営費、実験実習費等の学費収入です。

手数料は、入学検定料、試験料、証明手数料とセンター試験の実施手数料が主なものです。

寄付金には、資金収入の寄付金だけではなく、現物寄付金が含まれます。

補助金は、国庫補助金、地方公共団体補助金が中心です。

帰属収入とは、学生生徒等納付金、手数料、寄付金、補助金などの負債とならない法人に帰属する収入のことです。

学校が教育研究活動を行なうためには、校地、校舎、機器備品、図書などの資産を持ち、維持する必要があり、学校会計では、これらの教育研究活動に必要な資産を取得するために、帰属収入から充てた金額をもって、維持すべき資産等の金額としています。これが基本金組入額と呼ばれているものです。

【消費支出の部】 （単位：百万円）

科目	予算	決算	差異
人件費	1,698	1,617	81
教育研究経費	793	734	59
管理経費	255	233	22
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	0	12	△12
徴収不能引当金繰入額	2	5	△3
徴収不能額	0	0	0
[予備費]	10	0	10
消費支出の部合計	2,759	2,601	158
当年度消費収入超過額	180	344	
前年度繰越消費支出超過額	87	87	
基本金取崩額	0	76	
翌年度繰越消費支出超過額	94	333	

人件費は、教員人件費、職員人件費、退職給与引当金繰入額などです。

教育研究経費は、教育研究活動に必要な消耗品、旅費交通費、光熱水費などのすべての経費です。

管理経費は、教育研究の諸活動に間接的に必要な消耗品等の経費です。

基本金取崩額は保有する必要がなくなった対象資産の基本金への組入額を除却等により取り崩す額です。

≪消費収支の概要≫

収入については大部分を占める学生生徒等納付金、寄付金、補助金の合計が予算比3,000万円減収となっており、帰属収入合計は予算比4,800万円減収の29億8,800万円となりました。また、基本金組入額合計が予算比5,400万円減少となった結果、消費収入合計は予算比600万円増収の29億4,500万円となりました。

一方、支出については大部分を占める人件費、教育研究経費、管理経費の合計が予算比1億6,200万円減少して25億8,400万円となりました。消費支出合計では予算比1億5,800万円減少して26億100万円となりました。

この結果、当年度は3億4,400万円の消費収入超過となりました。

また、翌年度繰越消費収入超過額は、3億3,300万円となりました。

貸借対照表

【資産の部】 （単位：百万円）

科目	平成26年度末	平成25年度末	増減
固定資産	19,119	19,329	△210
有形固定資産	15,881	16,084	△203
土地	5,733	5,733	0
建物	9,202	9,403	△201
構築物	95	105	△10
教育研究用機器備品	118	131	△13
その他の機器備品	19	14	5
図書	694	685	9
車輌	4	6	△2
建設仮勘定	17	9	8
その他の固定資産	3,238	3,245	△7
流動資産	4,656	4,056	600
資産の部合計	23,775	23,385	389

【負債の部】 （単位：百万円）

科目	平成26年度末	平成25年度末	増減
固定負債	624	630	△6
流動負債	496	488	8
負債の部合計	1,121	1,118	2

【基本金の部】 （単位：百万円）

科目	平成26年度末	平成25年度末	増減
第1号基本金	21,929	21,962	△33
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	167	167	0
第4号基本金	225	225	0
基本金の部合計	22,321	22,354	△33

【消費収支差額の部】 （単位：百万円）

科目	平成26年度末	平成25年度末	増減
翌年度繰越消費収入超過額	333	0	333
翌年度繰越消費支出超過額	0	87	△87
消費収支差額の部合計	333	△87	420

【負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計】 （単位：百万円）

科目	平成26年度末	平成25年度末	増減
負債の部、基本金の部および消費収支差額の部合計	23,775	23,385	389

≪貸借対照表の概要≫

（資産について）建物、構築物、教育研究用機器備品の減少の主因は減価償却によるものです。
建設仮勘定の増加は、くらしき作陽大学附属認定こども園移行に係る経費が含まれています。
流動資産の増加は、未収入金、現金預金の増加等によるものです。

（負債について）流動負債の増加は前受金の増加によるものです。

（基本金について）減少の主因は、基本金の取崩によるものです。

（消費収支差額について）前年度までの消費支出超過額に今年度の消費収入超過額3億4,400万円が加わり、3億3,300万円の収入超過となりました。

※ 表示された数値以下の端数は個々に四捨五入してあるので、合計欄の数値と一致しない場合があります。

演奏会のご案内

7月 JULY 2015

21日(火) 〈開演〉18:45
ファルカシュ・ガーボル(ピアノ) ミニコンサート&公開レッスン
■ファルカシュ・ガーボル(リスト音楽院教授)によるミニコンサートと
ピアノ専修学生1～2名の公開レッスン
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

22日(水) 〈開演〉18:45
オペラ演習 前期発表会
■オペラ演習履修生によるオペラハイライト演奏会
〈学部〉「フィガロの結婚」より 〈大学院〉「ラ・ボエーム」より
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

27日(月) 〈開演〉19:00
2015作陽ファカルティコンサートⅠ
重利和徳 ピアノリサイタル
■重利和徳講師によるピアノリサイタル
バッハ／トッカータ ハ短調 BWV911
ベートーヴェン / ソナタ第26番 Es-dur Op.81a「告別」 ほか
■会場：聖徳殿 ■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下無料

8月 AUGUST 2015

5日(水) 〈開演〉18:45
ヴォーカルサマーコンサート
■声楽専修の在学生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

10日(月) 〈開演〉13:30
大学院サマーコンサート
■大学院生、大学院音楽研究科科目等履修生による演奏会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

9月 SEPTEMBER 2015

25日(金) 〈開演〉19:00
2015作陽ファカルティコンサートⅡ
ティモシー・カーター クラリネットリサイタル ～オペラとロマンス～
■ティモシー・カーター講師によるクラリネットリサイタル
G.フォーレ／ロマンス G.ロッシーニ／序奏・テーマとヴァリエーション
M.トローバ／恋人よ、わが命よ F.ショパン／スケルツォ第2番(編曲：クラリネット&ピアノ)
■会場：藤花楽堂 ■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下無料

10月 OCTOBER 2015

7日(水) 〈開演〉18:45
平成27年度 特待生コンサート（1、2年生）
■特待生(1, 2年生)によるコンサート
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

14日(水) 〈開演〉18:45
平成27年度 特待生コンサート（3、4年生)&コンクール入賞者コンサート
■特待生(3, 4年生)によるコンサートおよびコンクール入賞者によるコンサート
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

17日(土) 〈開演〉14:30
デザミド ミュジク&吹奏楽演奏会
■短期大学の学生・教員によるアンサンブルや吹奏楽の演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

20日(火) 〈開演〉18:45
作陽弦楽合奏団 第4回定期演奏会
■作陽弦楽合奏団による演奏会
J.S.Bach/Brandenburg Concerto No.2 他
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

23日(金) 〈開演〉18:45
ヴァンサン・ダヴィット
サクソフォンミニコンサート&公開レッスン
■世界で活躍するヴァンサン・ダヴィット氏によるミニコンサート&公開レッスン
■会場：聖徳殿 ■入場料：未定

27日(火) 〈開演〉19:00
第32回 作陽Music Gallery
■電子音楽専修生による演奏会 ■会場：1号館125室 ■入場料：500円

11月 NOVEMBER 2015

8日(日) 〈開演〉14:30
演奏系吹奏楽研究発表会
■演奏系吹奏楽履修生による吹奏楽研究発表会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

17日(火) 〈開演〉18:30
オペラ演習発表会
■大学院・オペラ研究員によるオペラ発表会「ラ・ボエーム」(ハイライト)
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

22日(日) 〈開演〉14:00
第6回作陽JWAこども吹奏楽団定期演奏会
■作陽JWAこども吹奏楽団の定期演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：300円(当日500円)

25日(水) 〈開演〉19:00
2015作陽ファカルティコンサートⅢ
第38回「作品のタベ」
■山下耕司、矢内直行教授の他本学作曲教員の作品演奏
■会場：藤花楽堂 ■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下無料

28日(土) 〈開演〉14:00
第28回日本伝統芸能・邦楽演奏会 さくよう歌舞座
■箏・三弦による邦楽演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

29日(日) 〈開演〉14:30
教育系吹奏楽研究発表会
マーチングバンド Drum&Brass Corps "MUSICA"
■教育系吹奏楽履修生による吹奏楽研究発表会および
マーチングバンド Drum&Brass Corps"MUSICA"による研究発表会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

12月 DECEMBER 2015

6日(日) 〈開演〉14:00
室内楽(打楽器)研究発表会
作陽パーカッションアンサンブルコンサート
■室内楽(打楽器)履修生による打楽器を中心とした、
クラシックのアレンジ曲や打楽器アンサンブル曲の演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

9日(水) 〈開演〉18:45
室内楽(弦楽器)研究発表会
■室内楽(弦楽器)履修生による研究発表会
■会場：聖徳殿 ■入場料：無料

20日(日) 〈開演〉19:00
第47回作陽管弦楽団演奏会（第九のタベ）
■G.シベリウス ／交響詩「フィンランディア」作品26
L.v.ベートーヴェン／ 交響曲 第9番 ニ短調 作品125
■会場：藤花楽堂
■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 学生1,000円(当日1,500円)
高校生以下500円(当日1,000円)

22日(火) 〈開演〉19:00
2015作陽ファカルティコンサートⅣ
長瀬敏和 サクソフォンリサイタル
■長瀬敏和教授によるサクソフォンリサイタル
■会場：聖徳殿 ■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下無料

1月 JANUARY 2016

8日(金) 〈開演〉19:00
2015作陽ファカルティコンサートⅤ
森圭吾 フルートリサイタル
■森圭吾教授によるフルートリサイタル
J.S.バッハ／パルティータ イ短調 BWV.1013
C.P.E.バッハ／ソナタ イ短調 他
■会場：聖徳殿 ■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下無料

21日(木) 〈開演〉18:45
2015作陽ファカルティコンサートⅥ
羽山弘子 ソプラノリサイタル
■羽山弘子准教授によるソプラノリサイタル
■会場：藤花楽堂 ■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下無料

22日(金) 〈開演〉18:45
金管合奏研究発表会
■金管合奏履修生による研究発表会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

22日(金) 〈開演〉18:45
第10回音楽デザイン専修 作品発表会「ミライへノトビラ」
■音楽デザイン専修生によるオリジナルミュージックビデオ作品発表会
■会場：藤花楽堂地下スタジオ ■入場料：無料

23日(土) 〈開演〉14:00
合唱・重唱発表会
■〈合唱〉"夢みたものは"(木下牧子 作曲)他
〈重唱〉バロックオペラ・モーツァルトのオペラより
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

24日(日) 〈開演〉15:00
後期オペラ演習発表会
■モーツァルト／オペラ「フィガロの結婚」
■会場：藤花楽堂 ■入場料：500円

31日(日) 〈開演〉14:00
くらしき作陽大学ウインド・フィルハーモニー特別演奏会
■宮川彬良氏 指揮による特別演奏会
■会場：藤花楽堂
■入場料：一般2,500円(当日3,000円) 高校生以下500円(当日1,000円)

2月 FEBRUARY 2016

12日(金) 〈開演〉未定
大学院ハーフリサイタル
■大学院生によるハーフリサイタル
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

20日(土)
21日(日) 〈開演〉未定
大学院修了演奏会
■大学院生による修了演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

3月 MARCH 2016

5日(土) 〈開演〉14:00
音楽療法専修生による卒業演奏会
■音楽療法で使用する曲など演奏、会場参加型の演奏会
■会場：1号館125室 ■入場料：無料

12日(土)
13日(日) 〈開演〉未定
平成27年度 卒業・修了演奏会
■平成27年度に卒業・修了する優秀者による演奏会
■会場：藤花楽堂 ■入場料：無料

倉敷館コンサート

開催日 5～7月、10～12月の毎週金曜日
時 間 18：30～19：00(5～7月)、18：00～18：30(10～12月)
会 場 倉敷美観地区内【倉敷館】
内 容 本学学生、教員による美観地区での夜間コンサート

都合により日程、出演者等、内容が変更になる場合がございます。
最新情報はお電話又は大学ホームページにてご確認下さい。

《お問い合わせ先》
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学
演奏芸術センター086-523-0822 FAX.086-436-0283
〒710-0292 岡山県倉敷市玉島長尾3515

くらしき作陽大学 検索

メールマガジン配信開始！
くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学の QRコードで簡単登録！
演奏会・公開講座等の最新のイベント情報やお得な情報をいち早くお届けします。
SAKUYOメルマガ会員募集中
PCからはこちら！▶ https://j.blayn.jp/bm/p/f/tf.php?id=sakuyokikaku

◎ 気になる施設の見学や体験授業で、大学の雰囲気を知るチャンス

Open Campus 2015

要予約

7/25［土］ **8/22**［土］ **9/13**［日］

11:00～15:00（受付10:30～）

2016 春のオープンキャンパス **3/25**［金］

13:00～16:00（受付12:30～）

JR新倉敷駅北口より無料送迎バスを随時運行します。

◎ 音大入試の傾向と対策を指導

作陽音楽講習会

要予約　要参加費

夏　期	秋　期	冬　期
7/18［土］・19［日］	9/19［土］・20［日］	12/12［土］・13［日］

［対象］中学生以上　［会場］くらしき作陽大学／作陽音楽短期大学

資料請求 お申し込みは

フリーアクセスで申し込む
0120-911-394

Eメールで申し込む
nyushi.sakuyo@ksu.ac.jp

ホームページから申し込む
くらしき作陽大学　検索

くらしき作陽大学　作陽音楽短期大学

2015 SAKUYO OPEN SCHOOL

第1回	第2回	第3回
7/25㊏ 体験	10/25㊐ 説明	11/22㊐ 準備

講習会
6/20㊏
音楽系 個人レッスン

～清陵祭～

文化の部	体育の部
9/4㊎	9/10㊍

実施内容
★希望の講座を選択・授業体験　★作陽教育、コースの魅力を説明
★制服紹介・部活動紹介・見学　★入試問題対策講座・面接対策講座 e.t.c

一人ひとりの
個性と可能性が
キラリと輝く場所

岡山県作陽高等学校
SAKUYO High School

0868-23-2188
sakuyo@sakuyo-h.ed.jp
http://sakuyo-h.ed.jp

学園報に関するお問い合わせは
作陽学園事務局
学園報担当（企画係）
〒710-0292　岡山県倉敷市玉島長尾3515
tel 086-523-0822／fax 086-436-0283
Eメール sakuyo.kikaku@ksu.ac.jp